

まちネットワークよりい  
まちネット寄居  
私たちから発信しよう 私たちのまちづくり

# 手をつなご!

まちネット 寄居通信『さあ 手をつなご!』はみなさんの支援力がエネルギー源

みんなで学ぼう

# 寄居町のふとところ事情は?

10月6日 会場:寄居町中央公民館 参加者 15名

町の財政は毎年町広報に掲載されていますが、関心はあっても見方がわからないという人が大多数ではないでしょうか。そこで、この数字をどう見ればよいのか、自治体財政研究の第一人者であるNPO 法人多摩住民自治研究所の大和田一紘先生にお話ししていただきました。また、所沢市の財政を2年間の学習会を重ねて、財政白書「市民から見た所沢市の財政」を発行した「ところざわの財政を学ぶ会」会員の方たちにも、作成までの流れや、学んだことなど実践からの貴重なお話をうかがう事が出来ました。

久しぶりに緊張した学習会  
満足度100%

この学習会で「情報開示」と、開示された「情報の精査力」の重要性を思い知らされた。

「財政はむづかしい」「その話わからない」。それは逃げる口実だ、と講義を受けながら反省した。

講義の大半は公開されている情報をどう解析するかであった。しかし私自身その見方と、活かし方の知識と技術が極めて低いがために精査する力、いわゆる“情報リテラシー”が弱いことを教えられた。久しぶりだ、あんなに集中したのは。



用意された資料の5ページ「地方政府における地方財政の三権分立」??行政権と立法権はわかる。でも、地方政府? 司法的役割の確立を得て三権分立?? 身を乗り出して聞く、聴く。なるほど、市民による行政、議会チェック機能「司法的役割」が確立されて住民自治が進展する、そうだよな。リテラシーが刺激される。

では寄居町は?? 議会と行政、二権が際立って町民を寄せ付けないお城みたいだ。基本条例、市民参加条例どこ吹く風、予算のチェック機関も議会だけで町民は蚊帳の外。その議会だって、財務決算の数字に一喜一憂、そう見える。近隣がうらやむ先駆自治体、なんてほど遠い。

地方政府? 自治体の政府機能、そうか、これまで自治体とは行政と議会の機能や役割だけだと思っていた。三権分立だよな。地方政府は地方自治体と同意語だ。「地方政府(地方自治体)における地方財政の三権分立」、自治体も政府機構を持つ。そこで初めて国や県の下請けでなくなる。まさに自治と分権の確立だ。

大和田先生の静かな語りのおかげで「国があって自治体があるのではなく、自治体があって初めて国が成立する」と言い残した松下圭一さん(今年5月亡くなった政治学者)のことばが浮かんできた。財政を理解することは、自治と分権を進めることになる。参加して満足。(久勝)

## お金の使い方を知ると町のことが見えてくる

過去5年、10年からのお金の使い方を分析すると自治体が、

- やっていること。
- やろうとしていること。
- やらなければいけないこと。
- やってはいけないこと。

がくっきりと見えてくること。なるほど、何をすることもお金ですものね。

とすると家計も自治体も、かなり同じなのかも。そう考えると難しそうな自治体の財政も、少しばかり、分かるような気になってくる。例えば、使えるお金が少ないなら少ないからこそ、何にお金を使うか？有効に使うかが大事とのこと。先の文脈で言えば、我が家では貯金もしなきゃ、旅行に行ったり美味しい物も食べたい、そろそろ石油ボイラーも買い替え時期だし・・・と優先順位や資金計画に頭が痛い。自治体も集団検診で医療費を抑えたいし、公共施設の立て替えや道路の修繕もしなきゃ、ゴミ処理もあるし、観光・地域振興もしたい・・・と課題は山盛りのなか、どれをどれだけやるのか？やらないのか？を、家庭で夫と妻が、時に子供も交えて相談するのと同じように関係するメンバー全員で、つまり、住民と町長と職員と議会が相談して決めていくことが必要なんじゃないかい？

具体的には、まず、公表されている総務省の財政状況資料集や決算カード等を元に過去5年、10年のお金の使い方を分析するところから始まり、その他多数資料も読み解き、その上で、あるべき・あってほしい町を考え、予算を決めていくとなるらしいのだが・・・。そうすると家計に引き寄せて身近に感じた財政が、また、遠く感じるの、正直言ってある。でも、今言った過程を住民と行政が一緒

になって出来たら、寄居町って元気で楽しくて心やすまる、住んでいたい・住んでみたい町になるんじゃないかなあ。というわけで、今回は序章だった大和田先生の学習会・本章の企画を希望シマス。

(矢島京子)



## 予算編成過程に住民参加を

協働と信頼関係の構築のためにも、予算編成過程や長期総合計画の策定等に於いても、住民参加とチェックは必須である。そこに描かれた将来像は、多くの人たちの合意を得られ、その自治体に相応しいものとなっているか、的確な人口予測もなされているか？議員の役割が重大であることは無論、住民もチェックできる力量が必要であることがよく理解できた。特に、予算編成過程に於ける住民参加が、地方自治の鍵を握っていることを改めて感じた。わが町では、計画・予算プロセスへの住民参加をどの様に進めていくのがいいのだろうか。「無関心」には、「よくわからないから」という理由も多い。北海道二セコ町では、10年以上も前に「二セコ町まちづくり基本条例」を策定し、「まちづくりは、町民一人ひとりが自ら考え、行動することによる『自治』が基本」という考え方を明確にし、「情報共有」と「住民参加」を保障して「住むことが誇りに思えるまちづくり」を押し進めている。大和田先生から「二セコ町の広報は、中学2年

生にも理解できるような視点で作られている」とお聞きし、興味をそそられて調べてみた。この基本条例では、満20歳未満の町民のまちづくりに参加する権利も保障されているのだ。住民が町づくりに夢を持てることが、住民参画のスタートラインとも言えそうだ。寄居町の老若男女も諦めずに、希望を持って、取り組みましょう！

Y.S

## 生きたお金を使って欲しい

町の財政なんて知ることでもできず、うわさで「町にはお金がない」と聞きました。そのようなときのお話だったので本当に良かったと心から思いました。でも、お話から町にはまだお金があることも知り、なぜ無い無いと言われるのか!! 少しずつでもよいことにお金を使い、将来の子どもたちのために残せる物作りをしておき、私たちの暮らしやすい方向へ向けていってほしいと願うばかりです。同じお金を使うにしても無駄使いはもったいないので、生きたお金を使って欲しい。そのためのお金がないなら私たちも頑張ろうと思います。

U.T

## 町の財政に関心を持つ

自分の住む町のお財布の出し入れがどうなっているのか？自分が普段使うお財布の中身には誰も日々頭悩ますのに、私たちの税金で成り立っている町の財布の中身については、我がことのように考えない、関心の無さがあるように思う。少なくとも私はその部類だと思う。どこかの知らない人の財布に関心がないように、町の財政は身近に感じることなく、私はこれまで過ぎてきていないだろうか。

たとえば、十数年前のこの町の事業で、憤慨した経験があった。寄居町に持ち家を建てて数年もしないうちに実施された、農業集落排水事業がそれなのだが、町づくりの計画に伴うものだったのだろうが、未だに釈然とできないままだ。新築時設置した何ら問題のなかった合併浄化槽を廃棄せざるをえず、そのうえ新たに多額(総額約90万円)の個人負担を伴う下水道事業を了承せざるを得なかった。環境改善のために下水の浄化が必要だったのだろうが、個人に多く負担を強いるのに、個々の状況も考慮されず、当然計画を受け入れることが前提で進められたように思う。どのような経緯で計画が立てられ、十分に検討され実行されたのか、経費は具体的にどのように賄われ使われたのか、自分の勉強不足もあったと思うが、情報不足で当時も今も納得できないままだ。自分たちの住む場所なのに、自分たちが望まないことがいつの間にかどこかで計画され、当事者は合意を求められるだけのやり方はおかしいと思う。

町の広報や議会だよりなどで「町の家計簿」が公表されているが、私たち一般市民にはここからは町の財政の問題や課題は見えてこない。今回の学習会では、具体的には公表されている財政の決算カードや統計表などから町の財政が見えてくるとのこと。そこから町の財政がわかってくると、これからやることとやってはいけないことが明らかになり、財政に理解が深まり、そこから町を知ることにつながっていく。つまり財政は町づくりと不可分だということがよくわかってくる。私は財政の具体的な見方などは難しくよく理解できなかったが、まずは個々人が財政について関心をもつことからスタートして、財政の見方と結びつけていくことの大切さを学べた。

所沢市の財政の市民白書を調査・編集したメンバーの一人の方が、

何よりも自分の関心のあるところから町の財政にアプローチしたとおっしゃっていた。自分の関心あるテーマを財政という観点から見ていくことが財政を身近なものにする入り口なのだということだろう。では私にとっては何かな？

そして付け加えるならば、町の財政に関心をもつこと的前提には何より「自分の住む町が好き」ということだが... (小金澤千代子)



## 第10回 今しか聞けない戦争体験のお話 子どもの目から見た当時の生活

10月21日 寄居町中央公民館

今回は講師に町内在住の福島誠さんをお迎えして行われました。当時を知るご年配の方、子育て中のお母さん、講演を広報で知られた方など多くの参加がありました。

福島さんは昭和4年、群馬県高崎市生まれ。15歳で海軍兵学校に入学。子供の目でみた当時の生活の様子をお話してくださいました。

昭和6年に満州事変が起こり、日本は日中戦争へ、その後の第二次世界大戦へ向かって行く時代でした。

少年だった福島さんも、戦地の兵隊に送る手紙や缶詰を入れた慰問袋を作り、鉱石を積み下ろす重労働の勤労奉仕をしました。

日々の様子を話して下さる合間合間に当時歌われていた戦時歌謡を歌って下さったのですが...。聞いたとたん驚いたことに、周りの空気が一瞬で、まるで当時にタイムスリップしたかのように感じられました。(YouTubeで「戦時歌謡」と検索すると多くの歌を聴くことが出来ます。とりわけ出征兵士が行進して行くさなか、子を背負い手を引いて叫びながら隊列の後を追っていた婦人の姿。お話とともに歌われた「軍国の



母」という歌の歌詞の「生きて還ると思うなよ」には、胸が締め付けられました。「歌は世につれ世は歌につれ」という言葉がありますが、日々の暮らしの中で人々が口ずさむ歌に戦争があったということは、悲しい恐ろしいことだと改めて感じました。

そして、兵学校に在学中の興味深い話があります。「兵学校では当時すでに敗戦を予感していた教官がおられたようでした。戦後復興を支える担い手となるよう、敵性言語と言われていた英語や、物理などの理数科の授業が行われていました。」

今ある日本の発展や平和は、命をなくされた人々の死の上に、と同時に当時を生き、戦後を生きの方々

の人生の上にあるのだと感じました。これを今の私たちが、今現在や、これからの人達の未来に繋いでいく立場にあるのだとも。

テレビなどの特番やインターネット検索などで、当時のことを知る機会は少なくありませんが、実際に当時を生きて来られた方の生の声を聞くことは、多くのことを感じ考えさせてくれる。そう今回も強く思った講演でした。(矢島京子)

## 戦時下の様々な人生

子供の頃、目に焼き付いた光景、大人となり人生の機微を知ってから振り返ったとき、その記憶の中の一人ひとりの大切な人生が息づいていたことに気付かされる。兵学校入学のため旅立つ息子を見送る父。赤ちゃんを負い小さな子の手を引く女性が、出征兵士の隊列を追いかける姿。父の枕の中身だった小豆を煮て食べた母と姉、ポマード臭くてどうしても食べられなかった自分。広島兵学校授業中に山向こうでピカッと光った瞬間と直後の静寂。私は、淡々と当時の情景を話されるのを聞きながら、福島少年の眼を通して、戦時下の日常の空気感が伝わってきたような気がした。生の声で当時のお話を聞くことの意義や大切さを強く感じた。また、お聞きした記憶の中の同時刻には、様々な人生が戦争に翻弄されながらも必死で生きていたであろうことに思いを馳せずにはいられなかった。戦時下の日常の一場面、一場面が、大切な実史なのだという思いも改めて深くし、これからも機会を見つけて戦争体験を聞いていき、次世代に伝えて行かねばと思った。Y.S

## 戦争はまだ昔の事ではない

貴重なお話をありがとうございました。

2年生の長女には英語禁止だった事や、灯りが漏れないように窓を覆ったり、といったわかりやすい事を伝えたいと思います。

今を生きている人から実体験としてお聞きすると、戦争はまだそんなに大昔の事ではないんだよな、と思えます。

高崎の赤ちゃんをおんぶして、5歳位の子の手を引いて出征兵士の隊列を追っていたというお母さんと自分が重なって見えて、誰も死んで帰ってこないなどと思っていた人はいなかったらうに……悲しくて悔しかったらうと思います。そういう時代だったとしか言えないのでしょうか。戦争も放射能ももう繰り返してはならないのに、今の日本はあの時代に比べて良くなったのだろうか？それとも?! そんな事を考えていました。J.T



士官学校時のゲートル

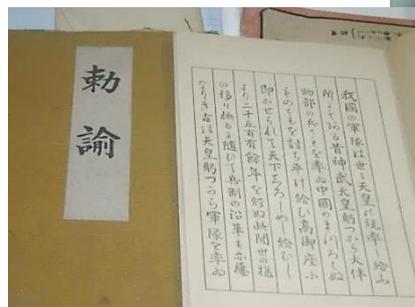


鋭利な爆弾の鉄破片

様々な年代層の参加者



軍人勅諭と物資の配給券



福島さんより提供された当時の資料

# 太陽光発電学習会

自分たちの暮らしは  
自分たちで決めるために

11月1日 講師:桜井 薫さん  
会場:男衾コミセン  
参加者 24名

自然エネルギーに関わって四半世紀の桜井さん。2011.3.11以後からの活動はとてエネギッシュだ。学習会冒頭の資料に記載された「自分たちで自分たちの暮らしを決めることができるために」のメッセージは市民自治を根幹に活動してきた「まちネット寄居」の理念そのもの。桜井さんの思いが熱く伝わってきた。

学習会の内容は、多岐にわたり、技術者としての太陽電池システムのことから、現在行われている、小川町市民共同発電所の取り組み、国の電力の仕組みの歴史とその課題、これからの電力の方向性など考えさせられることが山盛りだった。今私たちの生活圏では、いたるところで太陽光パネルが様々な規模で設置されている。自然エネルギーだからとなりふり構わず、営利目的のみに突っ走ってしまう企業への規制措置は不可欠とも思う。つい最近でも理不尽なソーラービジネスで大騒ぎとなった事例を聞いたばかりだ。そんな中、環境に配慮した設置を環境条例で設けている都市もある。

先日、埼玉県の出前講座、「埼玉県のエネルギー政策～分散型エネルギー・水素エネルギーについて～」を聞く機会があった。県の政策は、平成14年に制定された国のエネルギー政策を基本としてそれに準じた政策となっている。県のエネルギー消費は横ばい状態で、依然エネルギーの大量消費地だ。色々な分野で省エネが進められてはいるもの

の、家庭・運輸部門では全国に比べ比率が高くなっている。その原因は、世帯数の増加、軽自動車などの増加が挙げられている。それだけ暮らしが豊かになっているのか。いや、社会がエネルギーを消費する構造となっているのだろう。

再生可能エネルギー普及の基本方針、自立・分散型エネルギーの推進が挙げられてはいるものの、現時点ではまだまだ指針で具体的な動きとはなっていない。市民共同発電への助成も4団体で100万円規模にとどまっている。水素エネルギーへの取り組みはまだまだ今後の課題だ。県全体のエネルギーの中で太陽光発電は、4%にすぎない。これからますます国、企業、行政任せではない、市民が自然エネルギーを作っていくことが重要と痛感した。

**今回の学習会を1回だけで終わらすのではなく、できれば継続したいと思った。**子どもたちも巻き込んで、ソーラーパネルの製作を通してなど、小川町での取り組みを寄居町へも広げられればと考えた。この学習会を持てたことに感謝。

(大北秀子)



太陽光発電を考えるに、太陽光エネルギーのことをもう少し考えてみたい。つまり私たちが太陽光エネルギーで生きていることを思い出しておこう。私たちの肉体も、その動作も、思考のためのエネルギーも、植物が光合成で太陽の光を利用してこしらえるものを食べることで得られます。

食糧を自給、あるいは地産地消するとは、身近に降りそそぐ太陽光を使用して生きることであり、食糧の輸入は、目の前の宝をむざむざ見送り、かなたに降った太陽光をわざわざ石油を使って持ってくることであります。

石油、石炭、天然ガスは、かつての太陽光でもあります。水力発電だって、元のエネルギーは、太陽光です。水を蒸発させては大気を動かし、高々と持ち上げ、山の頂に雨を降らせる循環は、太陽のなせる技です。

温暖化問題とは、二酸化炭素云々よりも、太陽が二つ照りつけている暑苦しさのことです。ちなみに、原子力エネルギーは、ちょうどよい地球誕生の余りもの、封印されてこそ、冥府の太陽のごときもの。私たちは3つ目の不吉な太陽を加え、加熱しすぎ、進んで燃え尽きようとしています。

私は、過去や冥府に頼らない、本日、昨今のおてんとうさんの利用を考えたい。屋根や、ちょっとした空間を利用しての発電は、あのあと一気に進みました。しかし、森林や草原を生かし、バイオマスを経由する太陽光エネルギーの活

用は、ほとんど手付かずです。蓄電池の開発がなかなか進まないなか、太陽光発電は、発電パネルとバイオマスが相補うことで安定するはずです。

太陽光を受け取り、枝を伸ばし、繁った樹木は、すぐれてエネルギーを蓄養しながら、具合が良いことに、天然のクーラーの役割も果たすのです。かさばっても安定的でエネルギーを取り出しやすいバイオマスほどの優れたものは見当たりません。もったいないことに置き去りにされた森林が、イノシシを養い、私たちを追い立てます。

私たちは、森に向きあい、頭をたれ、その恵みをいただく生き方を選ぶことだってできるのです。

(伊藤 晃)

## 太陽光パネルを作ってみたい

桜井薫さんが3. 11以前から太陽光発電を手作りし、海外の無電化地域へ送る活動をしていらして、その活動の話や、3. 11のあと、すぐ被災地へ太陽光発電のパネル設置へ行かれた話しなど、とても興味深く聞きました。

電気の地域間関係線が細いと、地域によって太陽光電気に好意的な電力会社とそうでない電力会社と差があるとか、使い終わったパネルはリサイクルできるとかの話も、わかっている人から直接聞くことができ良かったです。

小さい地域でエネルギーを自給し管理し使うことで、新しい生活、新しい方向性へ進んでいけるように思います。自家発電やエネルギーの自給が今までより身近に感じられるようになり、私もハンダゴテを使って太陽光パネルを作ってみたいと思いました。

お話ありがとうございました。

(黒川 薫)

# ひと言 言わせて

## 陳情署名ありがとうございました

「件名 公職者および議会議員の  
町税滞納について」  
11月16日議会事務局へ  
提出しました

主催者集計 2644 筆。

この多くの「意思」を議会はどう受け止めるか。

9月議会での質疑、答弁で議員及び公務員の滞納者が存在する事実が明らかになり、表面化した町税滞納問題。耳を疑うあきれた事実、町民有志が「公職者の税の滞納を許さない会」を立ち上げ陳情書署名活動を起こした。そして、2644名の許さないぞ！の意思を得ることができた。紙面をお借りして、それぞれの地域で署名活動を主動して下さったたくさんの方々に、現時点での報告をします。

(15年11月20日)

陳情書署名活動の最も大きな理由は、私たちの税金で報酬を得ている「公職者及び議会議員」の中に町税滞納者がいる、という点。もう一つは、署名活動を行うことで、この事実が町内に広く伝わり、当該機関の透明性と町民のチェック機能がより高まる点。

陳情書という形で原口孝寄居町議会議長あてとしたのは、明らかになった「疑惑」の当事者が議会議員であること。同時に、議会のあり方が問われる問題だから。

以下、会の連帯発起人の一人として、事の発端の9月議会決算審査10月9～10日から今日までの見聞を述べます(次の機会で最終報告を予定しています)。

今回の署名、町の人々は千差万別の反応だった。中でも

- ①誰がいつからどれだけ滞納なのか不明確
- ②個人の問題で、個人いじめ
- ③政党活動だ

の3点が目立った。結果、署名された方とそうでない方に分かれたが、多くの町民がこの事実を知ったことは有意義であったと感じている。おかげで次の取り組み課題が明確になった。

### 良識の府が問われている

それよりも何よりも深刻な事態が露呈している。まず議会、11月20日この時点で、議会および議員が「事実無根」とか何とかの意志の表明がいまだ何も示されていない。町民に対して、公式に疑惑を払う行動がなに一つないのである。

そして次に深刻なのは、議会事務局から会の代表に陳情書の趣旨内容修正に関する電話が直接入ったことである。2回も。署名運動、間一髪入れず、陳情署名提出の前、である。

議会と議会事務局の姿勢をどう受け止めればいいのか。議会の自浄能力の欠如、事務局の越権行為、とだけで片付けるにはあまりにも町民を見下した姿勢、ああ…。

閉ざされた議会。町長の信条が理解できない小役人。陳情書署名が引き出したこの無見識な事象。署名運動は、寄居町の後進性の部分を浮きぼらせることになった。12月議会(12月上旬)みんなでこう！議会傍聴!!

公職者の税の滞納を許さない会(久勝)

# イノシシと民主主義



「国政」に関してものを言う道は、寄居町議会を通過していないようで、原発に関する国民投票を、という請願はとっくに葬られてしまいましたし、今年の6月議会で安保法制について質問しようとした議員の発言は、議事録から削除されたそうです。しかしながら、寄居町の辺境に生きる身にとって、イノシシのことは、待ったなしの死活問題ですので、もの言う道を探し続けてきました。

イノシシは、長い歴史の中で、必然的に表れたシンボルみたいなものです。私が見聞しているのは、4半世紀前に移住した私たち家族の生活圏にある里山が、ミニゴルフ場開発にさらされた以降のことですが、もっともってはるか昔からの森と人々の暮らしとのつながりの歴史があったわけです。そのつながりが、長い時間をかけ、あるいは力づくで急激に、失われていく中で、今現在のイノシシ問題があります。その流れに抗して、里山を利用する試みは続けられていますし、私も会員である「寄居町耕す人の会」の有志は、数年前から里山の下草刈りを行い、猟師さんと協力し、獲れたイノシシ肉を放射能測定しては食べてきました。しかしながら、もう手に負えない、有志ではなく地区全体の課題として、区民みんなが取り組む形にしてほしい、と望んでも、町からの指導という形をとらなくては話が進まないのです。自分たちで行動を起こすのにも、お上のお墨付きを必要とする、それが私たちの地元の限界でした。

とはいえ、イノシシ対策に関する要望書（1週間ほどで130筆の署名を添付）「イノシシ問題は、将来的には、一部地域の農業問題にとどまらず、広く町民の日常生

活を脅かすおそれさえあります。町として、イノシシ問題を重要かつ緊急の課題と認識してほしい。里山・農地の所有者に任せるだけでは、解決しません。隣接する地域住民すべての課題として、「イノシシが出てこない地域作り」の重要性について啓発活動を行ってほしい・・・等々」は、男衾区長会に受け入れられ、区長会全体として、町長と町議会への要望書を出してくれることとなりました。まちネット寄居が以前より強く要望していた、議会議事録のネット公開が10月から始まっていますし、今後の行政と議会の動きを注視したいと思います。（伊藤泰子）

# 時事川柳

- 高齢者わたる踏切鬼ばかり
- 道徳はまず政治家に学ばせよう
- 棄権せず憲法違反に付き合うか
- 18歳先にちらちら徴兵制
- マイナンバーいずれは利用徴兵に
- 合憲をめざし判事を入れ替える
- 新薬品 保護と無償の提供と

「ひとり蜂」

東京新聞掲載から(作者から転載承諾済)

# パワー全開 家庭菜園講座





大きなコンニャクイモ



あまかったよ～



これぞモンペならぬ家庭菜園ファッショ



かじったのはだ～れ

## information お知らせ

**ネット会員募集中  
いつでもどうぞ！**

毎日の暮らしの中で、感じていること、困っていることから出発。自分たちの足元から見つめ、話していきましょう。ぜひ、お仲間になってください。

問合せ・・・大北（582 - 4073）

## さよならナツハウス

まちネット寄居の定例会議に、打ち合わせにと気軽に使ってきた「ナツハウス」の解体がこの11月から始まった。主がいなくなって14年、生活クラブ生協の荷分けとしても毎週使用され、たくさんの人たちの出入りがあった。平屋の日本家屋で、懐かしいあたたかい雰囲気の家だった。本当にお世話になりました。ありがとうナツハウス。



ナツハウス

## 編集後記

10月から11月にかけて短期集中で3つの学習会などを持った。忙しい日々の中、どれだけの人たちが参加してくれるのか、と不安もあったが、とりあえずは自己満足かもしれないが、企画者側が楽しく納得できることをと考えるの取り組みとなった。終わってみると、それぞれの内容に納得と、満足感が得られたと思う。やってよかった、と素直に思う。参加者一人一人に様々な収穫があったと確信する。何より、財産となる新しい出会い、まちネット寄居への入会者もあった。一番元気になれることだ。次回の企画には、今まで参加したことのない方はぜひ足を運んでみて欲しい。必ず得るものがあると思う。今年は、早い秋の到来の後は、一雨ごとに寒さは来なかった。11月に入って今年も干し柿をつるしたが、すべてかびて廃棄。夜なべ仕事の水の泡となり、がっかり。子ども時代の霜月は、遠い季節となってしまったようだ。H.O

## 今年も充実 木曜野菜市



おかず畑の増谷さん、鷹巣の大島さん、恵子さんから今年も立派な野菜たちと新鮮な卵が届きました。売上金は、今年度の学習会経費として活用されました。ありがとうございました。